

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ながのけんうえだこうとうがっこう				②所在都道府県	長野県
27～31	① 学校名	長野県上田高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	各学年8クラス, 960人	
普通科	320	320	40		680		
⑥研究開発構想名	長寿県 NAGANO から世界のいのち・健康を支えるグローバルリーダーの育成						
⑦研究開発の概要	長寿県 NAGANO が世界に誇る「いのち・健康」に関わる課題研究をすすめ、その研究成果を発信するためにフィリピンや台湾への海外研修を実施する中で、自律的・協働的な21世紀型スキルを育成する生徒全員参加型の教育課程の研究開発を行う。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校は「公立普通高校型SGH」のモデルとなる生徒全員参加型カリキュラムを研究開発する。そのため大規模普通科高校において課題研究が展開できるカリキュラムを開発する。また課題研究と海外研修を通じて21世紀型スキルを備えたグローバルリーダーとして求められる3つの資質～課題解決力、国際活動力、情報発信力～を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、創立115年を迎え、江戸時代1790年建立の校門を持つ地域の伝統校として、スクールアイデンティティの「試百難」の心を大切に人間力等の育成を図り、高い成果を目指している。地域や保護者、同窓会からの進学を中心とした進路実現への期待に応えるため、生徒の学力向上を目指す取組をすすめてきた。そうした期待に応え、高いハードルに挑む資質の高い生徒も育ってきている。一方で、教師により多くのことを望む依存型の生徒が年々増加していることが課題となっている。</p> <p>そうした中で、本校は平成26年度、SGHアソシエイトに選定されるとともに、長野県21世紀型教育モデル校に指定され、教育課程内の取組として「社会と情報」でグループによる課題研究活動を取り入れた。また、海外研修の分野では、長野県教育委員会の指定を受けてJENESYS2.0 フィリピン派遣プログラムに生徒23名が参加した。現地では日本の魅力を発信したり、「いのち・健康」について意見交換したりし、帰国後は研修成果を学校内外で発表した。また年間を通して佐久総合病院等の外部組織と連携し、グローバル人材の育成に資する各種行事を企画・実施した。このようなSGHアソシエイトの取組に参加した生徒たちは、グローバル課題に着目するようになり、校内外の活動に対して意欲的に取り組む姿勢が際立っている。しかし本校のような大規模校において学年全員を対象とする課題研究活動をより効果的に実施するため、課題研究を各教科の授業に位置付け、継続的段階的組織的に取り組めるカリキュラムの必要性を実感している。そして「公立普通高校型SGH」のパイロット校として成果の普及を図りたい。</p> <p><仮説A> 探究活動と教科学習が連動したカリキュラムにより、全生徒を対象にした探究活動を効果的に実施できる。また探究活動と各教科学習への意欲が相乗的に向上することが期待できる。</p> <p><仮説B> 地域、国内そして海外での課題研究成果の発信や相互交流により、生徒の21世紀型スキルを効果的に育成できる。その結果、地域貢献、国際貢献に対する意欲を喚起し、明確な進路選択の意識を持つ生徒の増加が期待できる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究発表会により、研究開発成果の普及をはかる。 ・国内及び海外の交流校との相互交流による研究開発成果の普及をはかる。 ・他のSGH指定校と連携を取り、発表会やディスカッションを通して、問題意識を共有し、研究開発成果の活用をはかる。 					

⑧ -2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容 <u>課題研究テーマ：いのち・健康とインターフェイスするグローバル課題の研究</u> <u>～「長野モデル」から「グローバルヘルス」へ！</u></p> <p>いのち・健康とインターフェイスする次の4カテゴリーについてグローバル課題を探究し、アクセス可能なサブカテゴリーから課題設定し、地域・日本・アジア諸国と共有できる課題研究を実施する。そのため連携大学の教授、学生、留学生、また JICA, アイキャン, 佐久総合病院, 長野県庁, 上田市より課題研究の指導を受ける。</p> <table border="1" data-bbox="300 421 1441 577"> <tr> <td>A：自然環境と地域文化</td> <td>①環境・防災</td> <td>②人権・ジェンダー</td> <td>③歴史・アート</td> </tr> <tr> <td>B：食の観点とビジネス展開</td> <td>①農業・資源</td> <td>②食品・栄養</td> <td>③ビジネス・都市</td> </tr> <tr> <td>C：地域社会と国際社会</td> <td>①平和・貧困</td> <td>②国際協力</td> <td>③子ども・スポーツ</td> </tr> <tr> <td>D：地域医療システム</td> <td>①生命・情報</td> <td>②保健・医療</td> <td>③テクノロジー</td> </tr> </table> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>ア 実施方法</p> <p>《ステージⅠ：1学年全員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「IR」（国際関係論）〔1年全員3単位，教育課程の特例〕 世界史A，現代社会を融合し再編成する。 ・「GSI」（グローバルスタディⅠ）〔1年全員1単位，教育課程の特例〕 世界史A，現代社会を再編成。総合的な学習の時間，IRとコミュニケーション英語Ⅰで科目横断，融合型授業により課題研究を実施する。 ・「総合的な学習の時間」1学年テーマ「国際理解」「長野県におけるいのち・健康」 夏季休業中に課題研究テーマに沿った県内フィールドワーク 上田高校独自海外渡航「フィリピン・スタディツアー」（選抜）7泊8日 <p>〈ステージⅡ：2学年全員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「GSⅡ」（グローバルスタディⅡ）〔2年全員2単位，教育課程の特例〕 社会と情報2単位を再編成。 ・「総合的な学習の時間」2学年テーマ「台湾と平和」「世界におけるいのちと健康」 夏季休業中に課題研究テーマに沿った県外フィールドワーク 上田高校独自海外渡航「台湾研修旅行」（全員）4泊5日 <p>〈ステージⅢ：3学年40人選抜〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「GSⅢ」（グローバルスタディⅢ）〔3年選抜1単位，学校設定科目〕 課題研究の成果をまとめ，国際機関や行政機関にむけて政策プログラムの提言を行う。「信州発いのち・健康フォーラム」「北陸新幹線サミット」を主催。 <p>イ 検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH評価委員会により成果を検証，評価する。 ・学年課題研究発表会，松尾ゼミナール等の報告会を実施し，生徒の成長を評価する。 ・課題研究論文集作成，ホームページにて日本語・英語で世界に発信する。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>学校設定教科「SGH」を新設し，1年に「IR」3単位と「GSI」1単位を置く。 2年に「GSⅡ」2単位を置く。</p>	A：自然環境と地域文化	①環境・防災	②人権・ジェンダー	③歴史・アート	B：食の観点とビジネス展開	①農業・資源	②食品・栄養	③ビジネス・都市	C：地域社会と国際社会	①平和・貧困	②国際協力	③子ども・スポーツ	D：地域医療システム	①生命・情報	②保健・医療	③テクノロジー
	A：自然環境と地域文化	①環境・防災	②人権・ジェンダー	③歴史・アート													
B：食の観点とビジネス展開	①農業・資源	②食品・栄養	③ビジネス・都市														
C：地域社会と国際社会	①平和・貧困	②国際協力	③子ども・スポーツ														
D：地域医療システム	①生命・情報	②保健・医療	③テクノロジー														
⑧ -3 上記以外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>英語コミュニケーション能力の育成，留学フェロシップ，海外留学の奨励，ISAK交流，台湾交流事前学習中国語初級会話講座を開設</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用機器の整備 ・生徒会・班活動等の支援 ・各種コンテスト応募支援 																
⑨ その他 特記事項	<p>平成26年度より本校は，SGHアソシエイト，長野県21世紀型教育モデル校として既にSGH活動に取り組み，高い成果をあげている。</p>																

ふりがな	ながのけんうえだこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	長野県上田高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	650人
	SGH対象生徒以外:		300人	320人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 1, 2年生全員が就業体験を含む対外的な活動に参加することを目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		0人	5人	人	人	人	2人
目標設定の考え方: 「トビタテ! 留学JAPAN」プログラムの応募を推奨し、自主的な留学に出かける生徒が増加することを想定。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	55%
	SGH対象生徒以外:		35%	40%	%	%	%	45%
目標設定の考え方: SGH講演会「松尾ゼミナール」や海外研修によって、生徒の国際問題に関する興味関心を喚起する。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	6人
	SGH対象生徒以外:		0人	1人	人	人	人	1人
目標設定の考え方: 課題研究や海外研修の成果を発信したり、国内外の大会に応募することを推奨していく。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	65%
	SGH対象生徒以外:		50%	50%	%	%	%	65%
目標設定の考え方: 英語によるプレゼンテーション能力の開発に取り組み、主にコミュニケーション力が向上することを想定。								
ICT機器を活用して効果的な探究活動やプレゼンテーションを行うことができるようになったと考える生徒の割合								
f	SGH対象生徒:							65%
	SGH対象生徒以外:		-	20%				65%
目標設定の考え方: SGH教科「GSⅡ」によって、ICT機器を用いたプレゼンテーションについて生徒を指導していく。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
------	------	------	------	------	------	------	-----------

国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合

a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	30%	35%	%	%	%	%	%	55%

目標設定の考え方: グローバル化の流れの中で、SGUをはじめとする国際化に重点を置く大学が飛躍的に増大することを想定。

海外大学へ進学する生徒の人数

b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	10人

目標設定の考え方: 各年度、2名ずつ進学者が増加していくことを目標とする。

SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合

c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	75%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	55%

目標設定の考え方: 課題研究のテーマが大学の専攻と関連性のある生徒の割合と考える。

大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数

d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	90人

目標設定の考え方: 国際化に重点を置く大学が増えることで、海外研修プログラムによる機会も多くなることを想定。

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	32人	人	人	人	人	人	320人
目標設定の考え方: 2学年全員が台湾への研修旅行を行い、当地で課題研究に関するフィールドワークを行うことを想定。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	40人	人	人	人	人	人	320人
目標設定の考え方: 1学年全員がキャリア教育に関わる企業・大学訪問を行い、課題研究のフィールドワークを行うことを想定。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	2校	校	校	校	校	校	6校
目標設定の考え方: 研修旅行で連携する台湾の高校4校、フィリピン・スタディツアーで連携する高校大学それぞれ1校を想定。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0人	0人	人	人	人	人	人	75人
目標設定の考え方: 各学年で実施する課題研究に関して25人×3回を想定。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	12人
目標設定の考え方: 各学年で実施する課題研究に関して4人×3回を想定。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	30人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: JICA主催信州グローバルセミナー、佐久総合病院主催農村医学夏季大学講座参加生徒数を想定。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	0人	0人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方: 現状を踏まえ、各学年1名の受け入れを目標とする。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	2回
目標設定の考え方: 前期、後期の1回ずつ実施することを目標とする。								
外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 27年度中に一部整備し、28年度に完成することを目標とする。								
海外高等学校等教育旅行団の受け入れ、交流								
j	2回	3回						4回
目標設定の考え方: 台湾高等学校旅行団受け入れ3回に加え、JENESYS2.0による訪日団受け入れも目標とする。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	1,008	998	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							